

解答例

適性検査Ⅰ

1 100点

〔問題1〕 20点

わかりやすくしっかりとした理念があれば、それを自分の心の支えにして生きることができるだけでなく、相手がどこの国の人であっても自分のことを理解してもらうことができ、支えんを得ることができるから。

〔問題2〕 20点

これまでの日本的な仕事のやり方が通用しなくなっているので、今いる会社で通用している経験やスキルが、情報化、グローバル化した世界で使えるものなのか自問し考え直す必要があるということ。

〔問題3〕 60点

(省略)

適性検査Ⅱ

1 30点

〔問題1〕 15点

(1)	4.06 cm		
(2)	〔直角三角形〕 20 個	〔正三角形〕 10 個	〔円〕 7 個
	〔説明〕 1本のモールは、直角三角形を6個、正三角形を3個作るように切る。 1本のモールは、直角三角形を6個、正三角形を2個、円を1個作るように切る。 1本のモールは、直角三角形を6個、正三角形を1個、円を2個作るように切る。 1本のモールは、直角三角形を2個、正三角形を4個、円を4個作るように切る。		

〔問題2〕 15点

(1)	イ ●
(2)	2, 3, 4

2 40点

〔問題1〕 20点

〔サケのルイベ〕

サケのルイベに「雪にうめて、こおらせる」という保ぞん方法が用いられているのは、小たる市の冬の平均気温が0度以下だから。

〔マアジのひもの〕

マアジのひものに「日光に当ててほす」という保ぞん方法が用いられているのは、小田原市の冬のこう水量が夏に比べて少なく、日光に当てることができたから。

〔ブリのかぶらずし〕

ブリのかぶらずしに「あま酒につけて、発こうをうながす」という保ぞん方法が用いられているのは、金沢市の冬はこう水量が多く、空気がしめっており、発こうが進む気温だから。

〔問題2〕 20点

(選んだ二つを○で囲みなさい。)

米・小麦・そば

米がとれる地いきと小麦がとれる地いきの年平均気温と年間こう水量をそれぞれ比べると、米がとれる地いきの年平均気温は高く、年間こう水量は多いが、小麦がとれる地いきの年平均気温は低く、年間こう水量は少ない。

3 30点

〔問題1〕 14点

(1) 〔選んだもの〕 ウ

〔理由〕 実験1から、色がついているよごれを最もよく落とすのは、アとウであることが分かる。そして、実験2から、アとウを比べると、ウの方がより多くでんぶんのつぶを減少させることが分かるから。

(2) 5分後のつぶの数をもとにした、減少したつぶの数のわり合は、水だけの場合よりも液体ウの場合の方が大きいから。

〔問題2〕 16点

(1) せんぎいの量を28てきより多くしても、かんそうさせた後のふきんの重さは減少しないので、落とすことができる油の量は増加していないと分かるから。

(2) 〔サラダ油が見えなくなるもの〕 A B C D

〔洗剤〕 4 てき

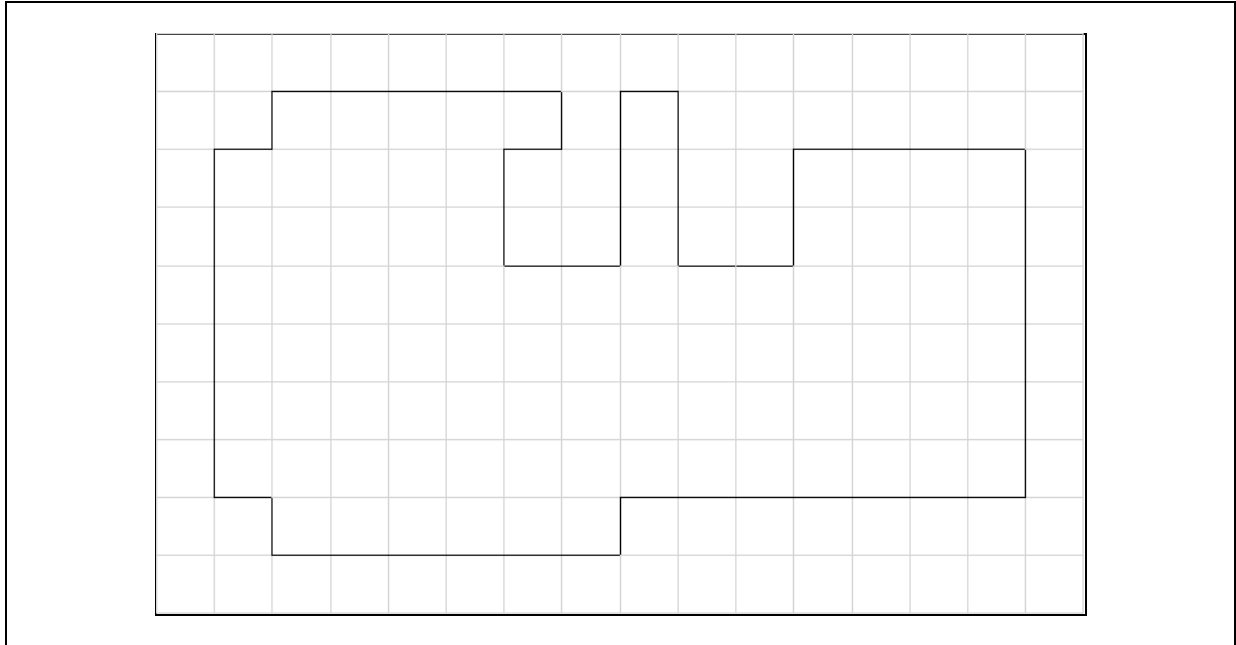
適性検査Ⅲ

1 45点

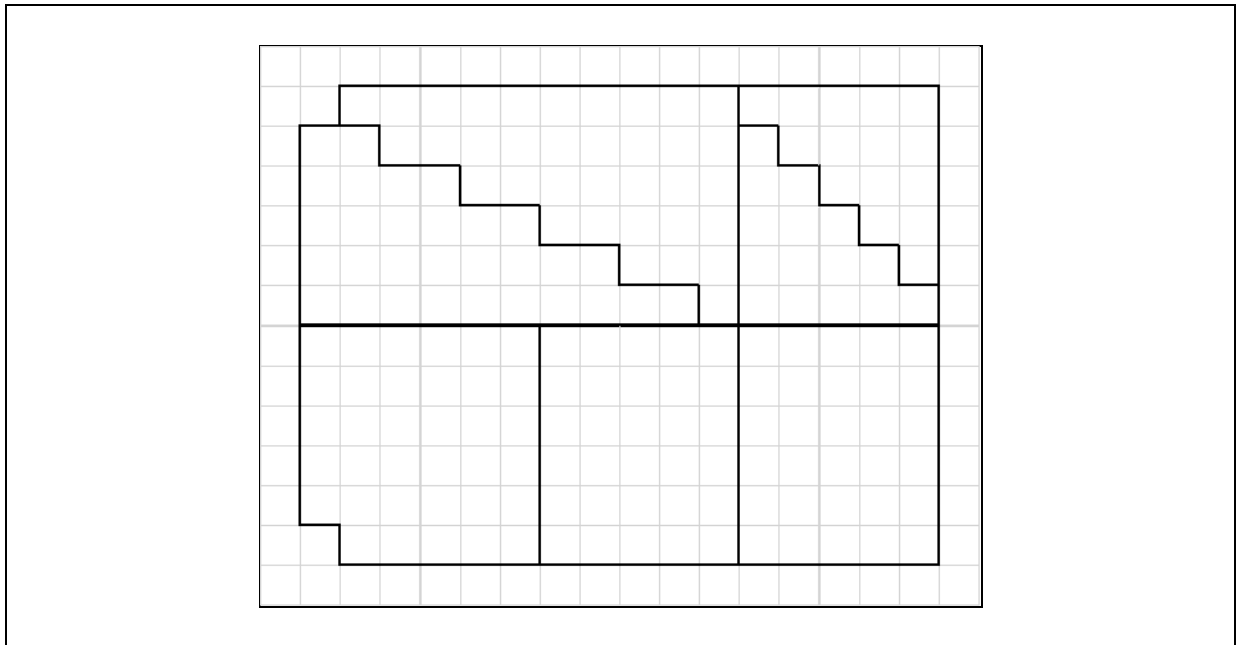
〔問題1〕 15点

ア 38	イ 40.34
ア 38.22	イ 40 など

〔問題2〕 15点



〔問題3〕 15点



2 55点

〔問題1〕 10点

逆さ卵の「逆さ」とは、何が逆になっているのかの説明

半じゅくたまごは白身が固まっていて、黄身が固まっていないたまごであり、逆さたまごは白身が固まっておらず、黄身が固まっているたまごである。よって、白身と黄身の固まり方が逆になっている。

「さか」がつく言葉

さかだち（逆立ち）

何が逆であるかの説明

立つときに、足が下で手が上ではなく、足が上で手が下となるように、上下逆に立つことである。

〔問題2〕 15点

実験結果から、黄身の方が白身より低い温度で固まる。さかさたまごは、黄身が固まり、白身が固まらない温度で加熱することでできる。

〔問題3〕 10点

たまごの大きさがちがう、

なべの材質や大きさ、形状がちがう、 など

〔問題4〕 20点

考えた疑問^{きもん}

同じ種類の魚では、大きさがちがっていても、ほねの数は同じなのか。

疑問を解決する方法

①お店で同じ種類で、大きさがちがう魚を買ってくる。

②魚を焼いて、身をはがす。

③ほねの数を数えて、比かくする。